

(様式1)

目標		歯科疾患の予防における目標					総合評価 (最終)	
具体的指標	策定時の ベースライン	中間評価	最終評価 (直近値)	目標値	(変更後) 目標値			
(1) ①3歳児でう蝕のない者の割合の増加	77.1% 平成21年	83.0% 平成27年	88.1% 令和元年	90% 令和4年度				
(2) ①12歳児でう蝕のない者の割合の増加	54.6% 平成23年	64.5% 平成28年	68.2% 令和元年	65% 令和4年度				
(2) ②中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	25.1% 平成17年	19.8% 平成28年		20% 令和4年度				
(3) ①20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	31.7% 平成21年	27.1% 平成26年	21.1% 平成30年	25% 令和4年度				
(3) ②40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	37.3% 平成17年	44.7% 平成28年		25% 令和4年度				
(3) ③40歳の未処置歯を有する者の割合の減少	40.3% 平成17年	35.1% 平成28年		10% 令和4年度				
(3) ④40歳で喪失歯のない者の割合の増加	54.1% 平成17年	73.4% 平成28年		75% 令和4年度				
(4) ①60歳の未処置歯を有する者の割合の減少	37.6% 平成17年	34.4% 平成28年		10.0% 令和4年度				
(4) ②60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	54.7% 平成17年	62.0% 平成28年		45% 令和4年度				
(4) ③60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加	60.2% 平成17年	74.4% 平成28年		70% 令和4年度	80% 令和4年度			
(4) ④80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加	25.0% 平成17年	51.2% 平成28年		50% 令和4年度	60% 令和4年度			
							評価 (中間)	評価 (最終)
(1) ①3歳児でう蝕のない者の割合の増加	調査名	厚生労働省実施状況調べ(3歳児歯科健康診査)、厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」(平成26年度以降)					a2 改善しているが、 目標を達成していない	B 現時点で目標値に 達していないが、 改善している
	設問	「地域保健・健康増進事業報告」第3章 市区町村編 第14表 市区町村が実施した幼児の歯科健診の受診実人員-受診結果別人員・医療機関等へ委託した受診実人員-受診結果別人員、都道府県-指定都市・特別区-中核市-その他政令市別						
	算出方法	(受診実人員-受診結果・むし歯のある人員)/受診実人員						
	算出方法 (計算式)	(1009633-231669)/1009633	(995003-168802)/995003	(897016-106724)/897016				
(2) ①12歳児でう蝕のない者の割合の増加	調査名	文部科学省「学校保健統計調査」					a2 改善しているが、 目標を達成していない	A 目標値に達した
	設問	年齢別 疾病・異常被患率等						
	算出方法	100(%) - むし歯(う蝕)のある者の割合						
	算出方法 (計算式)	100-45.38	100-35.52	100-31.76				
(3) ①20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	調査名	厚生労働省「国民健康・栄養調査」					a2 改善しているが、 目標を達成していない	A 目標値に達した
	設問	77表を特別集計	73表	79表-2				
	算出方法	「歯ぐきが腫れている」、「歯を磨いた時に血が出る」のいずれかに該当する者の割合	「歯肉の炎症あり」の割合	「歯肉の炎症あり」の割合				
	算出方法 (計算式)							

分析		<p>■直近値vs目標値</p> <p>(1) ①3歳児でう蝕のない者の割合の増加：目標値に達していない。</p> <p>(2) ①12歳児でう蝕の無い者の割合の増加：目標値に達している。</p> <p>(3) ①20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少：目標値に達している。</p> <p>■直近値vsベースライン</p> <p>(1) ①3歳児でう蝕のない者の割合の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児でう蝕のない者の割合は、ベースラインと比較して増加している。 ・全数調査のため、検定不要と判断。 <p>(2) ①12歳児でう蝕の無い者の割合の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12歳児でう蝕のない者の割合は、ベースラインと比較して増加している。 ・標準誤差計算不可のため、検定不可と判断。 <p>(3) ①20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少は、有意に減少 ($p<0.01$) <p>【注】重回帰分析を用いて、平成21年を基準とした平成30年との比較を行った。</p> <p>■経年的な推移の分析</p> <p>(3) ①20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少は、有意に減少 ($p<0.01$)</p> <p>【注】重回帰分析を用いて、平成21、平成26、平成30年の線形傾向を評価した。</p>
調査・データ分析上の課題		特記事項無し
分析に基づく評価		<p>■目標項目の評価</p> <p>(1) ①3歳児でう蝕のない者の割合の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近値とベースラインの比較において、3歳児でう蝕のない者の割合は増加しているが、目標値を達成していないため、Bと判定。 <p>(2) ①12歳児でう蝕の無い者の割合の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近値とベースラインの比較において、目標を達成しているため、Aと判定。 <p>(3) ①20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近値とベースラインの比較において、目標を達成しているため、Aと判定。